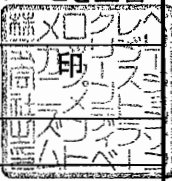


環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会  
(事務局: 気候変動対策認証センター) 御中

平成22年10月25日

## 検証結果の概要報告書

検証結果の概要について以下の通り報告いたします。

<b>対象プロジェクト名</b>						
当別ふれあいバスによる廃食用油由来バイオディーゼル燃料活用プロジェクト						
<b>GHG 検証機関</b>						
当該プロジェクトにおける検証を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。						
機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社					
担当部署名	審査・検証部門					
担当者名	松井 誉敏					
担当者 E-mail	program@pjrcdm.com					
担当者電話番号	03-5774-9565					
機関要件への合致	気候変動枠組条約における指定運営組織(DOE)として登録されている					
検証報告書発行日	2010.10.25					
<b>検証結果</b>						
適用妥当性確認・検証ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)妥当性確認・検証ガイドライン Ver. 1.1					
検証期間	2010年9月27日～2010年10月22日					
排出削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012
	t-CO2	-	* 1	* 1	-	-

検証結果の要約

ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社(以下、「当社」という)は、本制度において当別町地域公共交通活性化協議会(以下「事業者」という)が計画し、実施した当該プロジェクトについて、事業者が 2009 年 7 月 1 日から 2010 年 7 月 31 日の間に行ったモニタリング結果を記載したモニタリング報告書 Ver.1.1 における排出削減量に関する情報について検証を行った。検証手続は、本制度における実施規則 Ver.2.2、モニタリング方法ガイドライン Ver.2.1、ポジティブリスト No.E004Ver.4.0を適用基準とし、妥当性確認・検証ガイドライン Ver.1.1に定められている検証に関する事項に準拠して行った。

この検証業務の基準は、業務のリスクを勘案して策定した計画に基づいて、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることを求めている。検証は試査を基礎とし、文書確認及びインタビューを含む現地での確認により行なわれ、モニタリングがモニタリング計画書通りに実施されていることの確認に加え、モニタリング期間中におけるポジティブリストや適格性基準への適合状態の維持、法令順守、排出削減量の算定方法、データのモニタリング方法、事業者が採用した仮定、その基礎となるデータの評価、モニタリング報告書における記載の検討も含んでいる。これらの手続により、当社は意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当社は、上記の基準等に基づいた検証の結果、全体の不確実性の計算結果は排出削減量の5%未満であること、重要性の量的基準値5%未満であることを確認し、事業者が作成した上記モニタリング報告書Ver.1.1に記載された排出削減量に関する情報について、実施した確認手続により判明した範囲において、全ての重要な点において適正であると認め、「無限定適正意見」を表明する。

\* 1 : 当該モニタリング期間(2009年7月1日～2010年7月31日)における2009年度と2010年度の排出削減量の合算値は、54t-CO2であった。